

観光

本質を追求し 知名度アップと 観光客数の増加を 目指す

総社においての観光とは何か、本質を追求すべき。

総社の観光を考える「総社観光プロジェクト」の設立総会が5月17日、サンロード吉備路で開かれ、次回以降のテーマがこう決まりました。

全国に名をはせる民俗学者の神崎宣武さんやデザイナーの水戸岡鋭治さんら18人が出席。会長には、J R西日本コミュニケーションズ代表取締役社長で、下倉出身の浅沼唯明さんが就任しました。

会の名前は、意味明瞭なものが良いと、「総社観光プロジェクト」に。総社の知名度のアップや総社の魅力を全国発信するための研究や立案が、この会に

託された命題です。協議に入る前に、宿泊者数、公共トイレや駐車場の数、特産品など総社の観光の現状と課題について、委員の共通認識も図られました。

吉備路や鬼ノ城、宝福寺といった観光資源をはじめ、自然環境、交通条件などに恵まれた総社市。年間の観光客数は約60万人と見られています。「今ある素材をつなぐ作業が必要では」。効果的な案内の必要性を指摘する意見がありました。また、観光客が求めているものは、量ではなく質の高さであるとの意見も出ました。

「総社において観光とは何かを決め、足元を掘り下げてみる」ことが大切、「分科会を設置し、

具体的な内容を詰めてはどうか」との提案もあり、今後のこの会の進め方についても協議が行われました。その結果、2、3か月に1回のペースで会議を開催し、総社の観光の本質について深く議論し、一定の結論を得た後、テーマごとの分科会を開くこととなりました。

また、委員の一人、野口健さんを市の環境観光大使に委嘱することも承認されました。

問い合わせ 商工観光課 商工観光労政係 ☎8277

総社観光プロジェクト



5月17日発足。総社観光プロジェクトは、観光の第一人者であるJ R西日本コミュニケーションズ代表取締役社長の浅沼唯明さん、J R西日本の営業本部長、日本旅行業協会の岡山地区の会長をはじめ、デザイナーの水戸岡鋭治さん、アルビニストの野口健さん、民俗学者の神崎宣武さん、市内の観光関係者など20人で構成。会長は浅沼唯明さん、副会長は総社市観光協会会長の守安信吾さん



右から順に、総社観光プロジェクトの会長に就任したJ R西日本コミュニケーションズ代表取締役社長の浅沼唯明さん、ドーンデザイン研究所の代表取締役でデザイナーの水戸岡鋭治さん、総社市環境観光大使でもある野口健さん、民俗学者の神崎宣武さん。水戸岡さんは、井原線の夢や岡山市内を走る路面電車MOMOなど数多くのデザインを手掛けている



鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺などの観光地を結ぶ効果的な観光ルートの設置も、総社市の観光の課題の一つ



備中国分寺や宝福寺で行われている県の観光客動態調査などから、総社市に訪れる年間の観光客数は約60万人と考えられている。また、総社市の観光の現状として、平成15年に開業したサンロード吉備路により、通過型から滞在型の観光へと変化してきている



「皆さんに3つのことを助けていただきたいと思っています。1点目は「総社市の全国発信」。中身の充実した総社市として、全国、世界へこの総社市を売り出していきたいのです。総社市民が思うほど総社市は全く知られていません。2点目は「新しいアイデア、発想」。新しいアイデアをみんなで作って、みんなで役割を分担して、皆さんに動いていただき、手助けしていただきたいと思うんです。そして、3点目は「観光客を増やすこと」。年間60万人が総社市に来ているといわれています。ポテンシャルといいものはもっていると思いますので、創意工夫で観光客を増やしていただきたいのです。そして、審議のあり方や経過、結論を真しに受け止めて、着実に実行に変えてまいりたいと考えています。どうか皆さんお力をお貸してください」と、会の冒頭であいさつする片岡市長